

日本海洋学会環境科学賞の制定について

日本海洋学会会長 小池勲夫

「日本海洋学会環境科学賞」は、海洋環境保全に関わる学術研究の発展、啓発および教育に大きく貢献した会員を表彰することを目的とした賞であり、日本海洋学会としては、学会賞、岡田賞、日高論文賞、宇田賞そして奨励論文賞に続く 6 番目の賞になります。

本賞は、宇野木早苗名誉会員から日本海洋学会へのご提言とご寄附を基に設立されたものです。宇野木名誉会員は長年にわたり海洋研究者の立場から沿岸海洋環境問題に取り組んでこられ、昭和 48 年の日本海洋学会「海洋環境問題に関する声明」の策定とそれに基づく海洋環境問題委員会の設立にも中心となってお尽力されました。近年も、有明海、三河湾などにおける海洋環境問題に関する研究成果を学会や論文で積極的に発表されるとともに、海洋環境問題委員会の委員として学会提言の取り纏めを牽引されるなど、社会的活動においてもご尽力いただいています。平成 20 年 3 月、海洋環境問題委員会は設立 35 周年を記念するシンポジウムを開催し、宇野木名誉会員による「海洋環境問題に関する声明と委員会の設置」の講演を皮切りに、海洋環境問題委員会が携わってきた環境問題の事例紹介や委員会のあり方などについての討論がなされました。その中で、学会には多くの熱意ある若手研究者が居るにもかかわらず、彼らが海洋環境問題に直接参加することが少なくなっていることが大きな問題として提示されました。その背景として、近年の社会的情勢、特に若手研究者が研究職ポストを獲得する場での画一的な研究業績評価の偏重が挙げられ、多くの要因が複雑に絡む環境問題では、明確な研究業績を上げることが容易ではないというこの分野の特質と相まって特に若手研究者の参加が難しくなっているのではないかという指摘がなされました。そして、海洋環境問題に関する研究推進と環境保全への研究者の参加を促すために、論文はいうまでもなく論文の形になり難い貴重な調査、提案、解説、啓発的活動その他を含めて学会として認め、評価できる方策を考えねばならないとの合意が得られました。宇野木名誉会員はこの趣旨に深く賛同され、海洋環境保全研究の推進の思いを託され、奥様の公子様とともに日本海洋学会に対してご寄附を申し出られました。

幹事会では海洋環境問題委員会とともに宇野木名誉会員からの提言とその具体化について議論を重ねてきました。そして 2008 年度秋季評議員会を経て、海洋環境保全に関連した学術研究・教育・啓発活動における功績を称える新賞の制定と、海洋環境保全に関連する教育・啓発活動を対象とした助成事業を提案することといたしました。新賞の名称は「日本海洋学会環境科学賞」とし、年齢制限、人数制限は設けないものの若手を優先します。本賞を設けることによって、学会として海洋環境保全研究の推進を、今後より一層積極的に図ることを明確にするとともに、海洋環境問題への取り組みに対する正当な評価の一助となればと考えます。また、新賞や助成事業といった具体的方策の実施に加えて、海洋環境問題に対して海洋研究の専門家集団である日本海洋学会が社会に求められる役割について引き続き検討していきたいと思っております。会員の皆様には環境科学賞の制定趣旨にご理解いただき、その積極的活用にご協力いただけますようお願いいたします。